

## 第2回 四街道市教育振興基本計画策定委員会会議次第

日時：令和4年11月17日（木）10:00～

場所：市役所第二庁舎 第2会議室

1. 開 会

2. 教育長挨拶

3. 会長挨拶

4. 議 題

（1）第2期四街道市教育振興基本計画の基本理念について

（2）アンケート集計結果の報告について

5. そ の 他

6. 閉 会

## 四街道市教育振興基本計画策定委員会会議録

日 時 令和4年11月17日(木) 午前10時～午前11時30分

場 所 市役所第二庁舎 第2会議室

出席委員	会	長	江崎 俊夫
	副	長	小宮山伴与志
	委	員	上田 美加
	委	員	村上 伸
	委	員	能村 幸恵
	委	員	鈴木 良平
	委	員	後藤 陽子
	委	員	神田 雅美
	委	員	中島 隆
	委	員	山岸 竜治
	委	員	千脇みゆき
	委	員	米家 靖子

出席職員	教	育	長	府川 雅司			
	教	育	部	長	石川 智彦		
	教	育	部	副	参	事	真田 裕之
	教	育	総	務	課	長	荒木 寿久
	総	務	係	長	小安 敦夫		
	主	事	久保ももか				

傍聴人 2名

### 1. 開 会

○教育総務課長 定刻となりましたので、これより第2回四街道市教育振興基本計画策定委員会を開会いたします。

### 2. 教育長挨拶

○教育総務課長 初めに、府川教育長よりご挨拶申し上げます。

○教育長 皆さん、おはようございます。教育長の府川でございます。

本日は、ご多用のところ、第2回四街道市教育振興基本計画策定委員会にご出席をいただきまして、ありがとうございます。また、7月に開催いたしました第1回の会議では、第2期四街道市教

育振興基本計画の策定方針と基本的な考え方について、委員の皆様から貴重なご意見を賜り、重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、本日の会議でございますが、新たな計画の根幹となる基本理念の案について事務局より説明をさせていただきます。具体的な施策の検討に入る前に、本計画が目指す方向性を明らかにして、その考えや思いを委員の皆様と共有したいと考えておりますので、限られた時間の中ではございますが、前回に引き続き活発なご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上、挨拶とさせていただきます。

○教育総務課長 ありがとうございました。

### 3. 会長挨拶

○教育総務課長 続いて、江崎会長よりご挨拶をお願いいたします。

○江崎会長 改めまして、おはようございます。

先ほど教育長さんからのご挨拶にありましたように、基本的な理念と、方針等、計画の視点等について忌憚のないご意見をいただきたいと思います。不明な点は事務局に質問していただいて構いませんが、本日はそれぞれの思いや現状を踏まえたご発言を期待したいと思います。よろしくお願いいたします。

○教育総務課長 ありがとうございました。

### 4. 議題

○教育総務課長 議事に移りたいと思います。

議事の進行につきましては、四街道市教育振興基本計画策定委員会条例第5条第1項の規定により、江崎会長をお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○江崎会長 議長を務めさせていただきます。

まず、定足数の確認です。本日の出席委員は花井委員さんがご欠席ということで、12名いらっしゃいます。委員会条例の第5条第2項に過半数の出席がなければいけないという規定がございます。ですので、本会議は成立しているということをご報告いたします。

次に、議事録署名人の件ですが、今回は米家委員と後藤委員のお二人をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○江崎会長 よろしくお願いいたします。

次に会議の公開について申し上げます。会議は、原則公開ということになっております。開催の都度、審議内容を確認いたしまして、公開、非公開を決定することとなっております。本日の議題並びに資料等については、特に非公開情報はないようですので、公開とさせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○江崎会長 それでは、公開としてこの会議を進めさせていただきます。  
傍聴人はいらっしゃいますか。

○教育総務課長 現在2名の希望者がおられますので、入室をしていただきたいと思います。

○江崎会長 入室をお願いします。

(傍聴人入室)

○江崎会長 傍聴人の方をお願いいたします。ご発言はできませんので、よろしくをお願いいたします。

### (1) 第2期四街道市教育振興基本計画の基本理念について

○江崎会長 では、議題(1)、第2期四街道市教育振興基本計画の基本理念について、事務局の説明をお願いいたします。

○教育総務課長 議題1、第2期四街道市教育振興基本計画の基本理念についてご説明させていただきます。

第1回、7月の会議において計画の策定方針をお示しし、計画の策定に向けた基本的な考え方について協議をしていただきました。

本日の会議では、具体的な計画の策定に当たり、施策を検討していく際のポイントとなる第2期四街道市教育振興基本計画の視点と計画の幹となる四街道市教育振興基本計画の基本理念について、事務局案をまとめましたので、その考え方について1つずつ確認を行いながら、その内容や方向性について意見交換を行い、皆様と共通理解を図ることを目標、ゴールに協議を進めていきたいと考えています。最終的には、後日市長と教育委員会による総合教育会議での協議を経て決定することとなりますが、その過程において委員の皆様の貴重なご意見を参考にしたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

基本理念に基づく施策、事業の検討については、次回以降作業を進めていく予定ですので、併せてよろしくをお願いいたします。

それでは、お手元の資料1の1ページ、第2期四街道市教育振興基本計画の視点を御覧ください。第2期計画の視点についてご説明いたします。資料にお示しした5つの視点につきましては、国の次期計画のコンセプトなどを参考にしながら、本市における第2期計画の内容を検討する際に、考慮する事項を明確にするため作成したものです。これらの要素や条件を満たした計画を策定していきたいと考えております。

1番、社会の変化への対応。変化し続ける社会を主体的かつ協働的に生きるために必要な資質や能力を育むとともに、教育デジタルトランスフォーメーションを推進するなど、時代に即した教育体制の構築に取り組みます。

2番、持続可能な社会をつくる人材の育成。社会の持続的な発展を実現するため、持続可能な開発目標(SDGs)への貢献や社会参画に対する意識の醸成を図るとともに、倫理的に考え、自ら能力を発揮し、行動する人材を育成します。

3番、多様なウェルビーイングの実現。誰もが自分らしく成長し、生き生きとした人生を送るため、多様性あふれる共生社会の実現に向けた教育を進めるとともに、人や自然とつながり、心を豊かにする多様な学びの環境を整備します。

4番、子どもたちをまんやかに“みんな”がつながる計画。四街道の未来である子どもたちを中心（まんなか）に、家庭、学校、地域、行政（みんな）がつながり、共に学び支え合うことで、まち全体が一体となって子どもたちの健やかな成長を支えます。

5番、客観的な根拠を重視した教育政策の推進。より効果的、効率的な教育政策の企画、立案を行う観点や、計画の進捗状況を明らかにする観点などから、客観的な根拠を重視した行政運営（EBPM）に留意しつつ、施策ごとに成果を測るための指標を設定します。

この1から3は、計画の具体的な内容を検討していく上でのフィルターとなる視点と考えており、変化が連続する社会への対応、持続可能な社会の形成、多様なウェルビーイングの実現の各視点から、どのような事業を展開していくべきか、構想を練っていきたいと考えております。また、4は計画全体を整合させていく中で、どのような調整をしていくかというときに、子どもを中心に家庭、学校、地域、行政といった四街道市に集うあらゆる人たちが関わっていくことを目指す視点であり、つながりをテーマとしています。5は、計画を今後よりよく推進していく上で、根拠を明確にししながら、その実態を明らかにしていくための視点であり、計画の進捗管理や適切な情報発信に活かしていきます。

全体を通して、今学校で学ぶ子どもたちが社会の中心となって活躍する2040年以降の社会を念頭に置きながら、計画を推進すること、そして子どもたちだけではなく、市民それぞれが活躍できるような社会をつくり上げていくことを理想としています。子どもたちは、世界、日本の未来、四街道の未来を担っていく存在となります。家庭、学校、地域、行政が一体となり、子どもたちの成長をみんなで支え合うことで、その社会全体が成長することが可能となります。また、人口減少や高齢化、デジタルトランスフォーメーション、技術革新、グローバル化や多極化、地球環境問題などが、これまで以上に進行することが予想されており、先行きが不透明で将来の予測が困難な未来を迎えようとしているため、これまでのように予測された世界を想定し、そこから逆算して対応策を考えるだけではなく、私たちが望む未来を、私たち自身で示し、つくり上げていくことが求められていくと考えており、第2期計画ではこれらの考え方を踏まえた内容にまとめていきたいと考えております。

第2期四街道市教育振興基本計画の視点につきまして、事務局案を簡単にご説明いたしました。

なお、本日欠席されている花井委員より、第1回の会議を基に資料をいただきましたので、ここで皆さんにお配りしたいと思います。

（資料配付）

○**教育総務課長** 花井委員様からは、前回の会議の基本的な考え方に賛同していただくとともに、ウェルビーイングの興味深い記事を教えていただきました。それでは、視点について協議していただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○**江崎会長** 今、事務局から説明をいただきました。ただいまの説明に対して、ご質問、ご意見を頂戴するわけですが、次の基本理念についても続けて説明をお願いいたします。

○**教育総務課長** 資料1の2ページ、第2期四街道市教育振興基本計画の基本理念案を御覧ください。1ページの視点を基に、本市の教育が目指す姿として案を作成しております。

1、教育の基本理念について、第2期計画では「学び つながり 輝きあい とともに未来を拓く人づくり」といたしました。文言を選択するに当たって、学ぶことは生きることであり、主体的な学びを通じて自分らしく幸せな人生を送るウェルビーイングの視点を意識しながら、個人の幸せだけでなく他者とつながることで、誰一人取り残さず、みんなが輝ける社会の実現を本市の教育が目指す姿として掲げました。また、教育の根本は人づくりという考え方については、現行計画との接続や一貫性を確保する観点から継承しておりますが、行政における人づくりとは、自らを磨き成長する市民一人一人の営みを支援することと考えており、教育活動、場の提供、機会の提供、動機づけ、環境整備など、行政の役割に留意しながら、必要な施策を検討していきたいと考えております。

続いて、5つの人物像になります。新たな計画の基本理念案では、人づくりで目指すべき人にスポットを当て、5つの目指すべき人を掲げ、基本理念としています。

1つ目、学ぶ人。自分らしく幸せな人生を送るために、夢や希望を持ち、生涯にわたって主体的に学び、成長し続ける人を育成します。

2つ目、つながる人。他者と協働、共生し、社会の一員として活躍するとともに、国際的な視野を身につけた世界とつながる人を育成します。

3つ目、つなぐ人。郷土の自然や歴史を大切にし、伝統文化を継承しながら新しい文化を創造する「ふるさと四街道」を未来につなぐ人を育成します。

4つ目、輝きあう人。多様な価値観を理解、尊重し、互いの可能性を高め合う、思いやりと活力にあふれた人を育成します。

5つ目、ともに未来を拓く人。絶えず変化する時代の中、一人一人が持続可能な社会の創り手となって、ともに望む未来を切り開く、心豊かでたくましい人を育成します。

この5つの目指すべき人は、一人一人の力強く生きる力、人そのものが主体的に成長する意識を持つことを求めています。そのための学びが成長につながると考えております。また、心豊かで思いやりを持つことを忘れず、地域から世界に、過去、現在から未来へつなぐ力を持ってほしいという願いがあります。

1番までが基本理念です。

○**江崎会長** ただいま事務局から説明がありました視点が、5点あります。それと、密接に関連したものが2ページ目の基本理念の人物像、これも5点あります。これらは関連しておりますので、通してご説明をいただきました。

これは総論ですので、個別の事業や施策については総論の後にご意見をお寄せいただきたいと思います。まずは、この総論の視点並びに1の基本理念についてご意見を頂戴いたします。いかがでしょうか。

米家委員、どうぞ。

○**米家委員** 本当に基本理念のところは全て納得しています。このように思いながら子どもたちと接していきたいし、自分自身も生きていきたいと思える言葉だと思います。基本理念の「学び つながり 輝きあい とともに未来を拓く人づくり」というところの「輝きあい」について、もう少し

ぴったりくる言葉は何かないだろうかと思いました。もちろん輝いている人というのはすばらしいのですけれども、アンケートを読むと、学校についていけないとか勉強が難し過ぎるなどと思っているお子さんがとても多いようですから、輝くという言葉聞いて「私ではない」と思うのではないかと感じます。輝きあう人の中の内容はこのとおりでいいと思うのですが、それを表す言葉が「輝きあう」ではなく、もう少し地に足のついた言葉がないものかと少し思いました。それは皆さんに検討していただきたいなと思います。

○江崎会長 ただいまの米家委員さんからの投げかけですけれども、いかがですか。何かほかに適当な言葉があれば。

どうぞ、後藤委員。

○後藤委員 私が考えたのは「認め合う」という言葉です。やはり子どもも大人もいろんな人がいますし、得意なもの不得意なものがあり、皆が何でもできるわけではなく、いろいろな人がつながる中で、やはり少し合わないと思う人もいて、それでも認め合わないと事がうまく進まなかったりしますので、お互いが認め合って次に進めるというような形がしっくり来るかなと思いましたが、いかがでしょうか。

○江崎会長 ほかにご意見はいかがですか。

中島委員、どうぞ。

○中島委員 これを見ますと非常に言葉が立派なのです。新聞なんかで見ますと、学校の生徒は生徒の指導においても「うるせえ」ぐらいで、あまり聞いてもらえないというのが現状らしいですね。生徒と直接肌で接触するという、もっとそういう点が必要ではないかと思うのですが、いかがなものでしょうか。

○江崎会長 分かりました。それはそれとしてご意見頂戴いたしますが、ほかに言葉として何か適当なものがありますか。

能村委員。

○能村委員 米家委員さんのおっしゃっていることもよく分かります。ただ、この下に書いてある言葉をキャッチフレーズ的に表すと、「輝きあう」をイメージすると、認め合って高め合ってという、そういう姿が輝き合っている姿なのかなと私は感じています。私たちも今頭の中を巡らせているのですが、課題として考える時間をいただければ、もしかしたら代案が出てくるかなと思います。

○江崎会長 教育部長。

○教育部長 策定の作業部会の中で、これを話し合った中で出てきた意見、この言葉に落ち着いた背景についてですけれども、多様性や個性の時代にますますなっていく中で、一人一人がそれぞれの在り方で生き生きと生きている姿という、それをお互いが尊重し合うということが今後大事にな

っていくだろうということで、その生き生きと生きている姿を、「輝く」という形で表現したというのが理由としてあります。

また、「あう」という言い方になった経緯は、誰かのそういった輝く姿がほかの誰かを輝かせ、互いの生き方と響き合うようなイメージで、この言葉が選択されており、「あう」というのがみそであるというようなことが作業部会の中で話し合われました。ただ、そういった意図がストレートに伝わりにくいというところがもしあるようでしたら、違うものを考える必要があるかと今話を聞いて感じております。

○江崎会長 米家委員。

○米家委員 言葉が決まったいきさつを伺うと、納得しましたので、やはり教育部長がおっしゃったように、それがストレートに伝わるような形が選べたらいいなと思いました。

○教育部長 輝きの大小や違いはあっても、いわゆる世界に一つだけの花ではないですけども、みんなそれぞれに、それぞれの輝きやよさがあるというふうに、卓越した力や、優れた能力を持っている人が輝いているという考え方から、広げていくことが今必要なのかなと感じます。つまり個性や多様性の尊重という世界に入っていく上では、我々もその考え方みたいなものを変えていくという意味で少しこのような言葉として整理しましたが、今ご意見いただいているものともう少し調整できるものがあるかどうか、その点についてはこの後考えていきたいと思えます。

○江崎会長 千脇委員。

○千脇委員 私は後藤委員の意見にとっても賛成です。やはり誰かを認めるというのは今後主となるところかと思えます。ですので、理念として言葉にするのであれば、「輝きあう」前にまず認め合って、それから先に輝いていけたらいいなと思えます。お話を聞いていて、まずその視点もあるべきかなと思いました。

○江崎会長 ほかにこの件について、ご意見ございますか。

山岸委員。

○山岸委員 私も「輝きあう」は再考いただければと思います。これだけ格差がある社会の中で、きれいに響き過ぎる気がします。

○江崎会長 ほかにございますか。

では、課題ということですね。

(異議なし)

○江崎会長 よろしいですか。

今の「輝きあう」ことについては、これでよろしいですか。後でまた関連して出てくるかもしれませんが、1 ページ目の視点と、それから基本理念とつながっているので、矛盾がないとは



思いがあるかと困りますので、何かほかにご意見ございますか。

千脇委員。

○千脇委員 全体的なことになりますが、やはり学校に行っている子が中心な見え方がしますので、誰一人取り残さないという視点であれば、不登校のお子さん、その先を見据えた視点を持っていただけるといいと思います。アンケートを見させていただいても、学校に通っている子の意見ばかりに見えなくもない内容でした。不登校の子の意見がここに果たして入っているのだろうかという気がしますので、その視点を忘れないでいただけたらと思います。

○江崎会長 学校中心になっていて、もちろん不登校の子どもたちも学校に関わっているというのはあるとは思いますが、ちょっと違う見方などができるのではないかと、そういう趣旨のご意見です。これについて何かございますか。

千脇委員さんは、具体的にどのように感じていらっしゃいますか。

○千脇委員 大きい視点なので、全体的に見ているとは思いますが、中身を細かく見てしまうと、やっぱり学校中心というのを感じてしまいます。きちんと視野を広げられているのかとても気になりました。

○江崎会長 孤立するなど様々な問題を抱えている不登校の子どもたちへの考えが中に入らないということですね。そういう子どもたちなどについて、何かこの文章の中に感じられるものがあるというということでしょうか。

米家委員。

○米家委員 学校に行かない子どもたちということでは、私が関係している四街道市国際交流協会では、外国籍の子どもで中学を卒業すると高校へ進まないで家にいるというケースがとてもあります。特に女子に多いのですが、そういう子たちを私たちは外に連れ出そうとか社会とつながる居場所があるといういなということで、いろいろ努力をしています。学校に行っていないお子さんたちでも「つながる人」とか「つなぐ人」とか「輝きあう人」とか「未来を拓く人」にすることができると思うので、基本的な考え方として、これは学校現場だけではなくて、結局この後具体的にどういう場所をつくるかということにつながっていくと思います。

以上です。

○江崎会長 先ほど千脇委員さんから不登校の子どもたちの件が出ていましたし、今米家委員さんからもご意見を頂戴したので、次の2ページの基本理念の2番、教育が育む力についても事務局からご説明いただけますか。

○教育総務課長 続きまして資料2ページの下段ですが、2、四街道市の教育が育む力として、1の基本理念の実現のために四街道市の教育が目指すべき6つの力を掲げました。5つの人物像に示した行動を支える資質、能力としての育む力を四街道の頭文字と合わせながら整理しております。

1つ目、相手を思いやり、あらゆる他者の価値を尊重する力、よりそう。

次に、多様な主体と関係を築き、協働する力、つながる。

次に、地域や社会の形成に参画し、課題を解決する力、かいけつする。

次に、変化し続ける社会を主体的に生きる力、いきる。

次に、目標に向かって挑戦し、粘り強くやり抜く力、どりよくする。

次に、自ら学び、考え、判断し、行動する力、うごく。

持続可能な社会を形成していくために、一人一人が社会形成をより強く意識することが重要になってきます。そして、社会を主体的に生き、課題を解決する力は、つながる人、つなぐ人へと向かいます。また、自分の人生をコントロールできる感覚や人生に対する目的意識を持つなど、自律的、主体的に生きる力は、一人一人の幸せがみんなの幸せにつながる。また結びついていく多様なウェルビーイングの促進につながります。その力が学ぶ人、輝き合う人、共に未来を開く人へと向かうと考えてつくっております。四街道市の教育が目指すべき人に近づけるよう、目的意識を持って取り組むことを表しています。

以上、四街道市の教育が育む力として説明させていただきました。

○江崎会長 ありがとうございます。上のこの5点の理念に対応して、育む力の6つの力にまとめたということですね。

○江崎会長 米家委員、どうですか。

○米家委員 とてもきれいに収まっていて、すばらしいなと思いました。

○江崎会長 育む力の1点目、思いやりとか尊重する力というのがありますが、尊重する力というのは先ほどから話題になっています、「認め合う」というのにあたると思います。協働する力、これはつなぐとかつながるですね、そういうことだと思います。参画する、これはつながったりつなぐことが前提にあります。主体的に生きる力、これはもう全体を表していますね。粘り強くやり抜く力、最後は、学び、考え、判断し、行動する力、これは国が言っている生きる力になるかと思えます。この6項目は若干重複している部分もなきにしもあらずですけれども、分かりやすいといえれば分かりやすいでしょうか、いかがですか。現場の先生方はどうですか、この6点について。

上田委員、お願いします。

○上田委員 この「よつかいどう」という頭の文字をつくっているところが、子どもたちにとってもイメージしやすい、いい形だなと感じます。よく学校でも学級目標など、そういう形でやっているところが多いので、浸透しやすいかなと思って見ておりました。一つ一つの育む力というのを読ませていただいて、私の感じたことなのですが、「よつかいどう」の「ど」の目標に向かって挑戦し、粘り強くやり抜く力というところだけが少し前時代的というか、ありのままでもいいのだよというような、あるがままでいいよというのと、ほかの5つと少し違う雰囲気を感じました。頑張り、頑張りという時代背景と少し今流れが違ってきているのかなという感覚で、この基本理念も計画の視点も読ませていただいたときに、「目標に向かって挑戦し、粘り強くやり抜く力」という箇所が、少

し前の感じのイメージを持ちました。

○江崎会長 ほかに先生方、いかがですか、今の説明。  
村上委員。

○村上委員 今、上田委員からありましたけれども、まずひとつ私が今回の計画の視点を拝見して  
いて感じたこととして、今現状維持を目指すのか、あるいは発展を目指すのかという考え方がある  
のかなと思ったのです。いただいた中教審の資料の中で、持続可能な社会の発展を生み出していく  
人材を育てていきたいというのがあったと思うのですけれども、その2番に持続可能な社会をつく  
る人材という中で、私はその中に社会の発展を生み出す人材を育成していくということがあると、  
より現状維持を目指すと少しずつ平行か、それより下に行ってしまうかなと、つまりそれよりも発  
展を目指していく前向きな姿勢は国のほうがよりよいのかなというふうに思っております。そこが、  
この6つのところにも、もう少し表れてくるといいのかなと思っております。

○江崎会長 現状維持か発展、これは二者択一というわけではないですね。

○村上委員 はい。

○江崎会長 現状維持も発展も両方大事なのですけれども、というような意見でございます。  
どうぞ、鈴木委員。

○鈴木委員 私は、前回のものと見比べたのですけれども、まず基本理念の学ぶ人の中に、「夢や  
希望を持ち」という、この文言が入ったというのはとても素敵だなと思っております。現場で担任と  
して働いていて、夢を持っている子は、やはり体感として減ってきているかなと感じます。昔はよ  
く夢を言わせたり書かせたりすることが多かったからかもしれないのですけれども、今の子どもた  
ちは、進路学習やキャリア教育をやっている、将来に対して見通しが持てないということがあり  
ますので、やはり地域として夢を持つだけではなくて、その夢を手助けできる社会、先ほど山岸  
委員の話もありましたけれども、たとえ経済的格差や障害があったとしても、それぞれの夢が達成  
できる学校教育や、地域であってほしいと思います。

2番の四街道市の教育が育む力の中でも、先ほど上田委員がおっしゃっていた「目標に向かって  
挑戦し」というところがありましたが、ここにも夢とか、そういうものをこの社会で、みんな  
で支えていくというような文言で、夢を持つことと夢をかなえるためにこの社会が貢献できないかな  
というところで、意見というか提案というか、以上でございます。

○江崎会長 鈴木委員さんから話がありましたが、今夢を持つというのはなかなか大変なこと  
ですね。持たせるといっても、なかなか教員のほうから持たせるのではなく、自然と夢を持って  
もらいたいという、そういう願いを現場の先生方もお持ちだと思っておりますけれども、そう  
いうのを分かるようにしたいですが、これも難しいですね。

○鈴木委員 前回会議の創成期の話で、仕事がAIに代わっていくというというのは、未来がとても便利になるのですが、捉え方によっては将来仕事を奪われるというようなネガティブな感じにもなり、より何か夢を持って、それがもしくなわないとしても、なくなったとしても、また次の夢が出てくるような、そういう力や、視点というのは養っていけるのかなと思います。

○江崎会長 教員、先生方は大変だと思います。今、様々な子どもたちがいる中で、一人一人にそういう夢を持ってもらいたいという願いはもちろんありますけれども、なかなか持ちにくい世の中になってきていると思います。

小宮山先生、いかがですか。実際教員の養成などを教育学部でされていると、学生にはどういったふうに今の教育というのをとらえさせているわけですか。

○小宮山委員 ありがとうございます。教育行政の立場としての我々の学部は教員養成も担当しています。入学案内に我々は教員を養成することを目的としていると掲載しても、いろいろな学生が入ってくるのです。非常に意思があり、教員になりたいと思って入ってきて一生懸命頑張っている、教育実習に行ってもやっぱり私は無理だというような学生も実際います。それだけ現場は恐らく大変なのだという実感を私たちは持っていて、そういった意味でこの視点の考え方も理念も、主体的に育む力も、全く私異論がありません。非常によくできたもので、素晴らしいものだと思っております。ただ、育む力について言えば、現場の先生方はこれやらなければならないわけです。これは大変だなと、具体的にどうするのだろう、そこを支える力というのが恐らくどこかで必要になってくるというのは考えておかななくてはいけないなというふうに思っています。

なおかつ、用があり、ここ50年の日本のいろんな審議会等々について調べたのですが、中曽根内閣から始まり、小泉内閣から安倍内閣、それから今回の岸田内閣、いろんな教育改革をやっているのですが、40年前から50年前と大して変わらないと思います。最も恐ろしいなと思ったのが、実は最近武士道という本を読む機会があって、そういうところに書かれているものとあまり変わっていないのではないかなと思うような、結局のところ臨教審や中教審もそうなのですが、どういう日本をつくるのだという視点が欠けているのではないかなという気がしています。それがあやふやだと、目の前のデジタルトランスフォーメーションやAIが何のためかよく分からないことになってしまいます。

前々からAIは、シンギュラリティといって、AIは人間の知能を追い越す時代が来るのだと言われてはいますが、全然来ません。これは我々も分からないのです。少なくともコンピューター、AIなんていうのは、人間が突っ込んだデータでしか動かないので、そんなに恐れることはないのではないかと思います。ただそれを理解するための基本的な学力や使い方を、学校でやらなければならないだろうという話で、起こり得る社会に対して一番重要なのが、目の前のことに対応することなのか、それとももっと基本的なことをやることなのかという辺りについては、しっかりと視点を定めないと、目先のことに追われて、結局日本の学力が落ちちゃってしまいます。

研究から言わせてもらえば、日本はもう、研究力が落ちて、韓国、中国、その他の国に抜かれて、世界ランキングで30番に届くかどうかという位置になってくるという、現状をよく考えないと、一体全体何をやっているのかよく分からないという話になってしまいます。でもそういった意味で考えても、このいろんな理念は全く共感するところです。実際しっかりやっていくべきところなのだ

ろうと感じます。そしてその中で力を入れていくべきところを強調する必要があると思います。これを全部やるというのもやはりかなり大変ですよ。そういった意味で、どこを強調して、どのように進めるのが四街道市なのかというところが見えてくると、非常にいいのではないかなという気がしました。

○江崎会長 ありがとうございます。

はい。千脇委員。

○千脇委員 話が戻ってしまうかもしれませんが、「いきる」というところの「変化し続ける社会を主体的に生きる力」の「主体的に生きる」がよく分からないので、もう一度詳しく説明していただけますか。もっと具体的に、先ほど鈴木委員が言われた夢や希望を持つという言葉を使って「変化し続ける社会の中でも夢や希望を持ち生きる力」となると、もう少し分かりやすくなると感じます。

○江崎会長 育む力の上から4番目ですね、変化し続ける社会を主体的に生きる力という、この主体的というのはどのような意味でしょうか。

○教育総務課長 先ほどご説明した中では、視点でウェルビーイングというのが全ての目標に絡むような見方を、国も出しております、その中でやはり自立的、主体的に生きることがウェルビーイングの促進につながると、自分自身がこれからは生き抜く力、社会も自分がつくり上げていくのだというような考えを持ってもらいたいという願いを込めて、ここに主体的に生きる力ということで表していると、自分は考えております。

○千脇委員 ありがとうございます。ほかの5つはとても分かりやすく具体的なのですが、ここだけ少し分かりづらかったので、もう少し詳しくしてもらったほうが良いと思いました。

○教育総務課長 ありがとうございます。

○江崎会長 6点について、先ほど小宮山副会長さんからお話がありましたけれども、先生方がこういうのを具体的にやっていかななくてはいけない。

○山岸委員 これは教育だからといって学校教育に限っているわけではないですよ。

○教育長 そうですね、限っていません。

○山岸委員 学校教育の話になってしまったので、ここは確認したいと思います。

○江崎会長 分かりました。

○山岸委員 あと、子どもの学力は落ちていますか。

○小宮山委員 子どもの学力が落ちているか、難しいですね。PISAなどいくつかの評価がある中で、それぞれに解釈があり、分析のやり方がいいのかどうかも含め、実際に学力が落ちているかどうかよく分からないかなと私は思っています。あともう一つ、英語をこれだけ何十年も英語教育を改革して、大学の入試も改革をしていますが、ある英語の専門家に英語力は上がっているかと聞いたら、上がっていないのではないですかと言って、結局のところどうやって評価するかというのが問題だというように感じます。

○山岸委員 私が確認したかったのは、クラスサイズも日本のほうが全然大きいですし、日本の先生方はとてもよくやっぴらっしゃるのではないかなということをお伝えしたかったということです。

あと、あくまでも学力が落ちたと言い切るような結論を付けられるエビデンスはないですね。それを確認させていただきました。

○江崎会長 米家委員。

○米家委員 大学のランキングを出しているのがどの国かということをお慮すべきということ、英語の論文がどれだけ出ているかでランキングが決められて発表されているので、あのランキングで日本の学力が落ちたと判断するのは、違いかとも思います。これは学校のことだけではなく、生涯教育も全部含めた四街道市の教育振興基本計画と思って参加していますが、私は本当に努力をしないといけないという時代に育ちましたので、これを見て「よつかいどう」、全部すばらしいなと思って、努力するというのは私は確かに前時代の教育を受けてきて、前時代的かもしれないけれども、後ろのアンケートを見ると、やっぱり子どもたちが何々してほしい、何々だといいのにということを書いて、そういう質問だったからだと思いますけれども、それを例えば教室が汚れているとか学校がきれいではないから何々してほしいというのではなくて、自分で掃除しようよとか、ちょっと壁、ここをこすってみようとか、結局主体的に生きる力というのは、自分で自分の周りの問題を解決していこうということですよ。

そう思って、私はこの「よつかいどう」というのは「どりょく」もいいのではないかと思いますし、本当にうまく「よつかいどう」にはまっていて、全部すばらしいなと思ったのですが、「ど」をほかの言葉にするというと、思いつかないなと思って、今もずっと考えていました。今の子どもたちにそのままいいのだよというメッセージとはまた別に、夢に向かっていくには努力もしてみるとおもしろいよということも、またあっていいかなと私は思います。

以上です。

○江崎会長 様々なご意見をいただいて、あと学校教育だけではなく、社会教育、生涯学習の面でも、当然こういう育む力を考えなくてはいけないのです。社会教育になると、主に大人がいて、高齢者も含めてという話になると、なかなかこの力というのはどう考えたらよいか、難しい点があると思います。ですので、どうしても学校が中心になってしまう面があるとは思いますが、

先ほど小宮山副会長さんから、先生方や学校を支える、そういう面も考えないといけないと思います。

○小宮山委員 特別な支援が必要な人に必ず特別な手だてをなさないと、こういうのは一人一人に必要なものだと思いますので、その上で、先ほど行ったように上位概念も、いろんなものがあるのですけれども、結局大枠としていろんなものでやらなければいけない中で、さらに個別最適化だという、何か全部現場に丸投げのように、私からすると見えてしまうのです。そういった意味で、施策をするときにやはりちゃんと計画し、それをある方法論をもってそれを実行しながら身のあるものにするためには、必ずそれらにサポートがないといけないと思っています。その辺のことをどうするかを議論していかなければいけないと思っております。

○江崎会長 ありがとうございます。それは各論のほうになりますので、施策の検討のときにお願いいたします。

○小宮山委員 分かりました。

○江崎会長 視点、理念についてほかに何かご意見はありますか。  
山岸委員。

○山岸委員 要望なのですが、千脇委員がおっしゃったどの子ども取り残さないとか、子どもだけではなくて全員ということなので、文科の文書にもありますが、誰も取り残さない社会みたいな視点を入れていただけるといいなと個人的に思っております。要望いたします。

○江崎会長 分かりました。この理念についてはよろしいでしょうか。  
(異議なし)

## (2) アンケート集計結果の報告について

○江崎会長 次に進みます。  
アンケート集計結果について報告をお願いします。

○教育総務課長 資料の4、第2期四街道市教育振興基本計画に係るアンケート調査を御覧ください。

今会長からもお話がありましたが、アンケートの調査結果というのは非常に重要なものと考えておりまして、このアンケート調査は計画の策定において、またこれから施策の検討に当たっては非常に重要になると思っております。現在のこの資料は、アンケート調査結果を単純集計したのになります。これから分析を進めていきまして、今後の施策の検討に生かしたいと考えております。それでは、抽出してご説明いたします。1ページが調査の概要になります。調査対象は、8つに分類し、全部で9,159人。回収数は全部で4,337人、回収率は47.4%となります。

2ページ目からがアンケート調査の内容を記載しております。

続いて、36ページ、ここからが集計結果となっております。少し飛びまして51ページ、上の問いになるのですが、小学校の保護者に今後の教育施策で重要と思うことを聞いております。とても重要と思っているという回答では、いじめ、不登校の解消、相談体制の整備というのが一番多く、豊かな心を育む道徳教育、命の教育が2番目に多くなっています。

また、飛びまして57ページ、上の問いを御覧ください。中学校の保護者に同じ質問をしたところ、ALTと連携した外国語教育、実践的な英語力の育成といじめ、不登校の解消、相談体制の整備、これがとても重要と回答されております。

次に、62ページの上の問いを御覧ください。幼稚園、保育所の保護者に、お子様にどのような能力や態度を身につけてほしいか聞いております。自ら学び、考え、主体的に行動する力が一番多く、次に思いやりの心や善悪の判断など道徳心が2番目に多くなっております。

続いて、76ページの上の問いで小学校と中学校の教職員に今後の教育施策について重要な項目を聞いております。小中学校とも教職員の働き方改革、児童生徒と向き合う時間の確保が1番となっております。

続いて、教職員が課題と感ずることということで、小学校では72ページの下問い、ここで家庭の教育力の低下が一番多くなっています。

次に、77ページの下問いで、中学校の教職員では家庭の教育力の低下と児童生徒の基礎学力の低下を挙げております。

次に、81ページ、上の問いを御覧ください。市民へのアンケートになります。今後の教育施策について、重要な項目は家庭、学校、地域の連携が1番となっております。また、81ページ、上から3番目の問いでは、子どもたちや教育について課題と感ずることは、問題行動やいじめ、不登校が一番多くなっています。

なお、資料の最後につけさせていただいたのですが、第1回の会議において千脇委員から不登校の生徒の推移についてのご質問がございましたので、資料をつけさせていただきました。今アンケートの調査もあるのですが、不登校児童生徒の対応についても、新しい計画の中で重要な施策の1つとして検討していきたいと考えております。アンケート調査結果の報告は以上です。ご意見等ございましたら、よろしくお願いいたします。

○江崎会長 このアンケートの結果を踏まえて、これから策定しようとしている各事業の中身について、またこの会議で議論するというのでしょうか。

○教育総務課長 これから検討していきます。アンケートは当然分析が非常に重要になってくると思います。なかなか難しいところがございますが、こういった貴重な意見は大切にしていきたいと考えています。

○江崎会長 それを反映させていくということですね。

○千脇委員 質問していいですか。

○江崎会長 千脇委員。



○千脇委員 調査方法がインターネットとあります、具体的に教えてください。学校のパソコンで子どもが答えていますか。以前は紙でもらってきて丸つけしていたと思います。

○教育総務課長 基本的には、QRコードを読み取っていただいてネットで回答するやり方です。市民についてはネットでの回答が難しい環境の方もおりますので、無作為に抽出した2,000人に、紙とQRコードどちらも送付し、可能な方法で回答できるようにしました。

○千脇委員 小学校5年生の回答率が非常に高く、どのようにお子さんに回答させたのかが気になりました。

○教育総務課長 こちらにつきましては、各学校にアンケート調査の依頼をしております、それぞれ子どもたちと保護者に依頼をして回答していただきました。

○千脇委員 さきほども言いましたように、不登校の子の声が入っていないのではないかというのをすごく感じてしまったのは、この数字のところでした。学校の現場で携わっている方がいらっしゃったら教えていただきたいです。

○上田委員 学校が市から、教育委員会から一人一人いただいたタブレットで子どもが回答しているという状況でした。保護者の方には、QRコードをマチコミという連絡ツールを使用し、ご回答お願いする形でやっておりました。

○千脇委員 では、親子がそろって回答するのではなく、子どもは子ども、親は親で。

○上田委員 はい。中学校は保護者と生徒が別の形でやりました。

○千脇委員 ありがとうございます。

○能村委員 小学校も同じです。

○江崎会長 子どもたちはタブレットを持っているのですね。

○上田委員 はい。タブレットを一人一台持っていますので、それで回答しています。

○江崎会長 千脇委員さん、よろしいですか。

○千脇委員 はい、分かりました。

○江崎会長 それにしても、確かに保護者のほうは回答率あまりよくないですね。子どもたちはも

う本当に真面目ですから、保護者が不真面目というわけではないのですが、忙しくてなかなか回答できなかったということもあるのでしょうかね。

このアンケートについて、何かございますか。

○江崎会長 はい、後藤委員。

○後藤委員 アンケートではなくて、不登校の児童についてなのですけども、四街道市ではフリースクールをどう認めているのか教えてください。千葉市では結構認めていらっしゃるって、フリースクールは教育委員会や学校とやり取りして、出席日数に認めていて、中学校の生徒を次につなげるというか社会につなげる活動をしていらっしゃると思います。ルームよつばに通えない子たちは千葉市のフリースクールに通っている子も実際いらっしゃると思いますし、そういう子たちが出席日数に認められていない場合はどんな感じで思っていて、今後きっとそういう子たちが令和3年度にぐっと増えていて、やっぱり学校についていけない子たちとかも増えていくのかと推測される中で、そういうサポート体制も整えていかないといけないなと思っています。まずは今の体制をお聞きしたいです。

○江崎会長 フリースクールの件でご質問がありました。  
上田委員。

○上田委員 本校も千葉市のフリースクールと市川市のフリースクールに行っている生徒がおりますが、全て連携を取って認めています。もちろんルームよつばについても認めて、他市でも体制を整えております。

○後藤委員 ありがとうございます。

○上田委員 あと、この不登校が増えた要因は、やはりコロナ禍で自宅でタブレットの学習をしても出席扱いになりますという、そういうのが非常に小学校も中学校も多くなっていて、不登校という概念は学校に来ていないということなので、自宅でタブレットの学習していても、コロナ禍の状況であれば出席扱いにしています。それも有り増えていると思います。無理やり学校に来なくても学びの選択肢があり、家でも学校の授業を見ることが出来る。授業配信を実際に学校でできている状態です。そういう運用でコロナ禍でぐっと数字が上がって来ているというのが、学校の現場の実態としてはあります。

○江崎会長 コロナが影響している面もあるということですね。

○山岸委員 あと、先生がおっしゃったように、コロナ禍でリモート授業が受けられていることも一因としてあり、不登校しやすい状態にあるのではないのでしょうか。全国で増えているので、この数字は全国並みということではないですか。

○江崎会長 後藤委員。

○後藤委員 その中で、そういうタブレットで授業を受けられるお子さんはいいのです。そうではないお子さんはやっぱり何人かはいらっしゃると思うので、そこを見落とさないようにというところなのではないのかなと思います。

○江崎会長 分かりました。何か他にございますか。

報告の分析については、次回ということになりますので、それぞれの委員さんにおかれましては、これをまたじっくり読んでいただいて、ご自分なりの考えをまとめておいていただけると、次回の会議がスムーズに進めていけます。

○江崎会長 こちらの議題について、よろしいですか。

(異議なし)

○江崎会長 以上で本日の議題についてはこれで終わりです。

## 5. その他

○江崎会長 何かその他にありますか。

(なし)

○江崎会長 それでは、進行を事務局にお返しいたします。

○教育総務課長 本日は、大変お忙しい中、四街道市教育振興基本計画策定委員会にご出席をいただき、また貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

意見の中で、誰一人取り残さないといった表現を加える等、ご意見をいただきましたので、策定の中で生かしていきたいと考えております。

今後の計画策定に向け、また主な施策をこれから先ほどのアンケート調査の分析等を含めて生かしていきたいと考えております。

次回の会議の予定でございますが、年度明けになってしまうのですが、4月下旬から5月上旬ごろに開きたいと考えております。皆様には改めてご連絡させていただきます。今後とも教育振興基本計画策定のため、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 6. 閉 会

○教育総務課長

これをもって第2回四街道市教育振興基本計画策定委員会を閉会いたします。

皆様、ありがとうございました。